

ヌー・アベック・ゾツ
NOU AVEC ZOT



商船三井会長
 経団連ロジスティクス委員長
 日本・香港経済委員長
 いけだ じゅんいちろう
池田 潤一郎

「NOU AVEC ZOT（ヌー・アベック・ゾツ）」
 ——これは、モーリシャスの現地語（クレオール言語）で「私たちはあなた方と共にいます」という意味の言葉である。

2023年1月6日、私はモーリシャスの首都ポートルイスの客船ターミナルにいた。同国の政財界のVIPを招いてのレセプションで行ったスピーチで使った結びの言葉が「NOU AVEC ZOT」だ。月が輝くターミナルの岸壁には、当社グループが運航するクルーズ客船につぼん丸がその白い船体を休めている。日本を出て22日目、につぼん丸ははるばるインド洋を横断し、アフリカまでクルーズを続けてきた。ディナーの時間なのか、レストランの窓を通して楽しそうなお客さまの会話のさざめきが聞こえてきそうだ。

話はここから2年以上さかのぼる。2020年8月に当社の運航する貨物船がモーリシャス沿岸で座礁、燃料油を流出させるという海難事故が起きた。船をチャーターした当社には、事故の直接の責任はない。一方、モーリシャスの自然環境に影響を与えた結果に対する社会的責任をどう考えるか。様々な検討の結果、出した結論が10億円の支援策だった。その大宗は日本

とモーリシャスそれぞれで立ち上げた基金に拠出し、モーリシャスの環境、文化、経済支援プログラムに使われることになった。流出油の影響がなくなるまで出漁を禁じられた漁業従事者の方の生活や、日本の貨物船の事故ということでも苦しい思いをされた現地日本人会の皆さんのことも忘れることはできない（中には油が広がることを妨ぐために、オイルフェンスを作る際の材料として自分の髪の毛を切り提供された方までいた）。それから3年。事故を起こした船体は完全に撤去され、流出した油もその痕跡もほとんど残っていない。基金活動も軌道にのり、サンゴの回復、自然環境保全、地域住民の福祉向上など様々なプロジェクトが進められている。当社の現地法人でも現地スタッフの雇用を増やした。日本大使館とも密接な関係を築かせていただき、おかげでモーリシャス政府との関係も良好だ。それでも支援は始まったばかり。同国からは、日本からの投資や観光客の呼び込み、そして当社のクルーズ事業に対しても期待が大きい。そしてこの8月、私は在東京モーリシャス共和国名誉領事に任命された。これからも「NOU AVEC ZOT」を心に刻み、両国関係の強化に努めていきたいと思う。